

ぶどう通信

第 20 号

平成 14 年 6 月 1 日

ついに暑くなってきましたね。四、五月の不思議な天気ですっかり調子が狂ってしまいました。ようやくよくそれらしくなってきました。

ところで、今月からサッカーのワールドカップが日本で始まりました。これまであまり日本では人気がなかったサッカーが、Jリーグ発足以来飛躍的に人気のスポーツになってきました。じつは、これにも最近の教育事情が重なっているようです。

これまで、日本の人気スポーツといえば間違いなく野球でした。しかし、最近の学校のグラウンドは狭く、バットを思い切り振り回すということが出来なくなりまし。それに対してサッカーは、場所が狭ければ狭いなりに、人数が少なければ少ないなりに「ミニゲーム」という形で出来る

のです。また、「バット」が不幸にも凶器に使われる事件があったがあつたせいかもしれない。そして何よりもサッカー人気を支えているのは「世界」という舞台があるおかげでしょう。今回のワールドカップがまさにその舞台なのです。多くの少年たちがすごい技を目の当たりにして、強い日本代表が将来できるといいですね。ということ、今月はサッカー一色になりそうです。

お薬の話

僕たちは皆さんからよく耳にすることですが、実はよく知られていないことの中に薬の服用というものがあります。医師が体調を見ながら薬を処方し、薬剤師が調剤する、というのはどこでも行われていることです。しかし、ご本人が薬を飲むときにとどのような状況なのかはまったく考え

られていません。

水を飲むと「むせ」があるので少量の水分で服用する人、錠剤をうまく飲み込めない人、粉の薬（散剤）だど口の中に広がってしまい飲めなくなってしまう人。人それぞれに苦労されているようです。しかし、その声は医師や薬剤師には届いていません。

そこで、以前皆さんにもご協力いただきましたが、「服薬状況のアンケート」を元に日本プライマリ・ケア学会というところでその状況について発表してきました。少しでも皆さんの声が医療者の耳に響くといいですね。